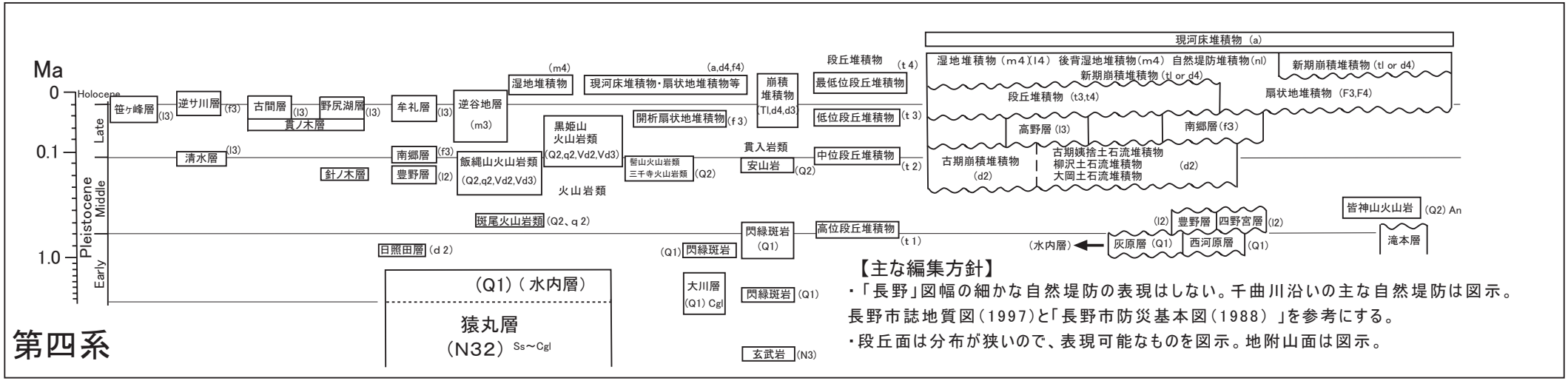
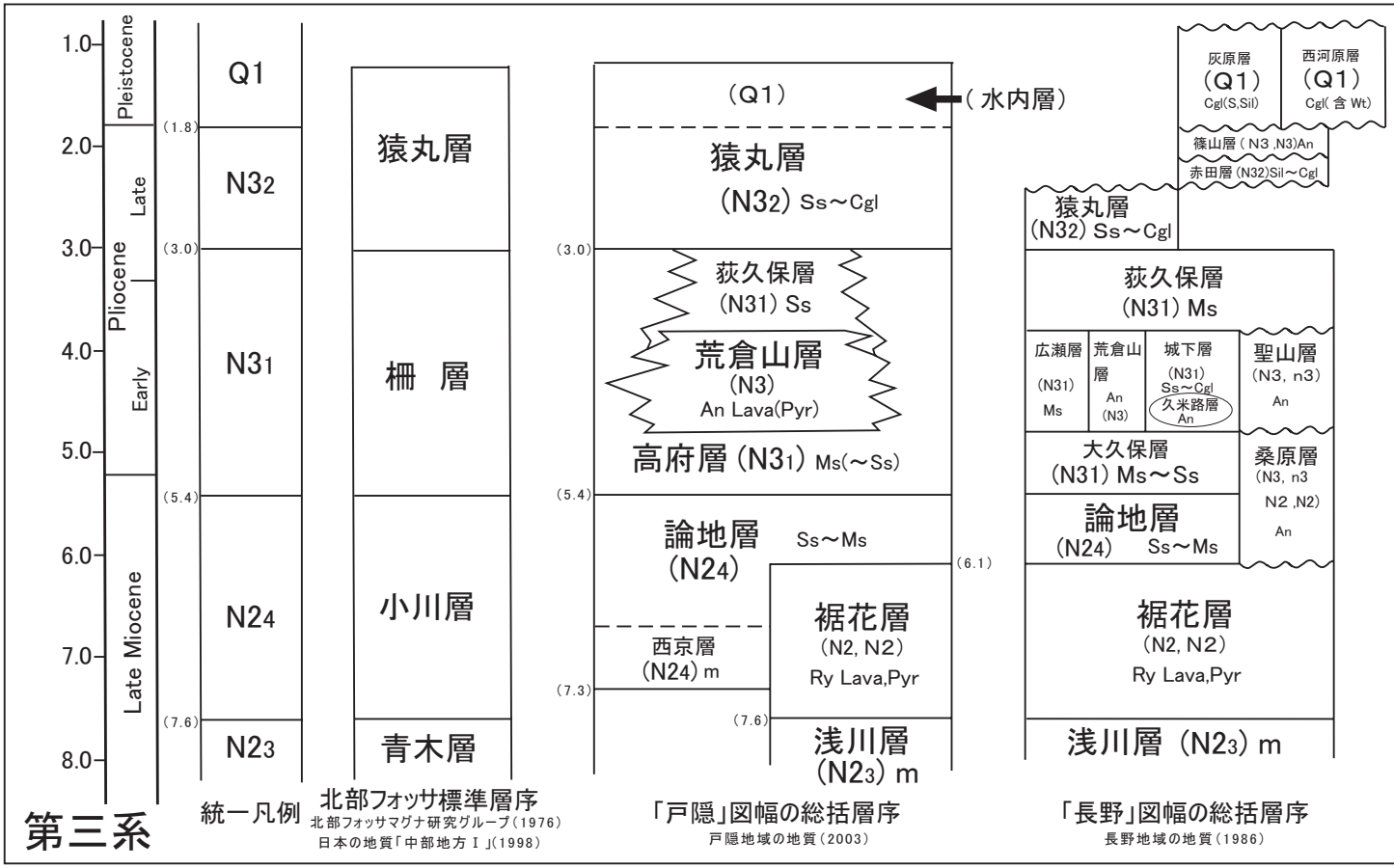


【主な編集方針】

・「長野」図幅の細かな自然堤防の表現はしない。千曲川沿いの主な自然堤防は図示。長野市誌地質図（1997）と「長野市防災基本図（1988）」を参考にする。

・段丘面は分布が狭いので、表現可能なものを図示。地附山面は図示。



【主な編集方針】

＜猿丸層について＞

・灰原層、西河原層は猿丸層に対比し Q1 に統一

・T4 tuff よりも上位の猿丸層（水内層相当）は Q1 として区分する

・猿丸層は N32（Ss～Cgl）で一括し、上下部で分けない

＜荻久保層について＞

・両図幅の荻久保層は定義が異なるため「戸隠」図幅の高府層 N31(Ss～Ms)に荻久保層を含め一括する

・「戸隠」図幅の定義は使わず、荒倉山層より上位の高府層を「荻久保層」と定義して地層境界を引く。境界線は「長野市防災基本図（1988）」を参考にする。

＜荒倉山層について＞

・両図幅で岩体の区分の仕方が異なるため、主要な岩相である dacite-andesite Lava で代表させ細分しない

＜裾花層について＞

・「戸隠」図幅を基本に、溶岩層と火砕岩層で区分する「長野」図幅の pumiceous tuff は hyaloclastite として Lava に含める。岩相境界をつなげるには、長野市誌地質図（1997）と「長野市防災基本図（1988）」を参考にする。

1/5 万「長野」、「戸隠」図幅地域の総括層序と長野県統一凡例との対応

20070410